

生物多様性がもたらす恩恵と、事業活動が与える影響を認識して策定した行動指針のもと、生物多様性の保全に努めています。

[↓生物多様性保全に対する基本方針](#) [↓生物多様性保全の取り組み](#)

生物多様性保全に対する基本方針

地球環境への意識が世界的に高まる中で、企業が取り組むべき環境課題はますます多様化しています。富士電機が従来から取り組んできた地球温暖化防止や資源循環、化学物質管理などの環境負荷低減活動に加え、近年は生物多様性への配慮も求められるようになってきています。

こうした中で富士電機は、「事業活動が生物多様性からの恵みを受け、また影響を与えている」との認識のもと、2010年3月に「生物多様性行動指針」を策定し、事業活動が生物多様性に与える影響の最小化を図るとともに、製品・サービスの提供や社会との連携を通じて、生物多様性保全に貢献していくよう努めています。

富士電機生物多様性行動指針

1. エネルギー関連事業で環境負荷を低減し、生物多様性保全に貢献する

富士電機は、エネルギーサプライチェーン(エネルギーの生産から使用まで)の中で省エネルギー、創エネルギー等の技術開発に積極的に取り組むことで社会全体の環境負荷低減を図り、生物多様性保全に貢献します。

2. 事業活動における生物多様性への影響の最小化を図り、持続可能な利用に努める

富士電機は、事業活動のすべての場面及び製品のライフサイクルにおいて生物多様性に及ぼす影響の最小化を図り、持続可能な利用に努めます。

3. 社会と連携し、生物多様性保全に配慮した活動を積極的に推進する

富士電機は多様なステークホルダーと連携し、生物多様性に配慮した事業活動及び社会貢献活動を積極的に推進します。

生物多様性保全の取り組み

業界団体ワーキンググループへの参加

富士電機は、生物多様性保全の推進を目的として電機・電子4団体[※]により2011年5月に発足された「生物多様性ワーキンググループ」に参加しています。

2013年度、このワーキンググループでは、生物多様性保全活動の教育・啓発用ツール「Let's Study Biodiversity」(生物多様性を学ぼう)を完成させました。今後、企業活動と生物多様性との関係性の理解と、生物多様性保全活動を促進するための社員教育のツールとして活用を図っていきます。

※ (一社)電子情報技術産業協会／(一社)情報通信ネットワーク産業協会／(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会／(一社)日本電機工業会

Topics

外来植物の駆除

富士電機パワーセミコンダクタ社飯山工場では、2011年度より同工場社員が、工場構内および周辺に生息するワルナスビや、セイタカアワダチソウなど、外来生物法で要注意外来生物に指定されている外来植物を駆除し、地域固有種の保全に努めています。

緑地の保護

操業70周年を迎えた東京工場は、構内の緑地を「武蔵野の森」として保護を続け、23.5%の緑化率となっています。また、森の付近に池を作り、樹木に巣箱を設置して、野鳥の保護も行ってきました。その結果、キジバトなどの野鳥やシャガなどの野草が自生するようになっています。



東京工場の「武蔵野の森」



外来種の駆除